

稲作情報 5号

田植え後の生育は順調で3日ほど進んでいる。!

1 気象経過

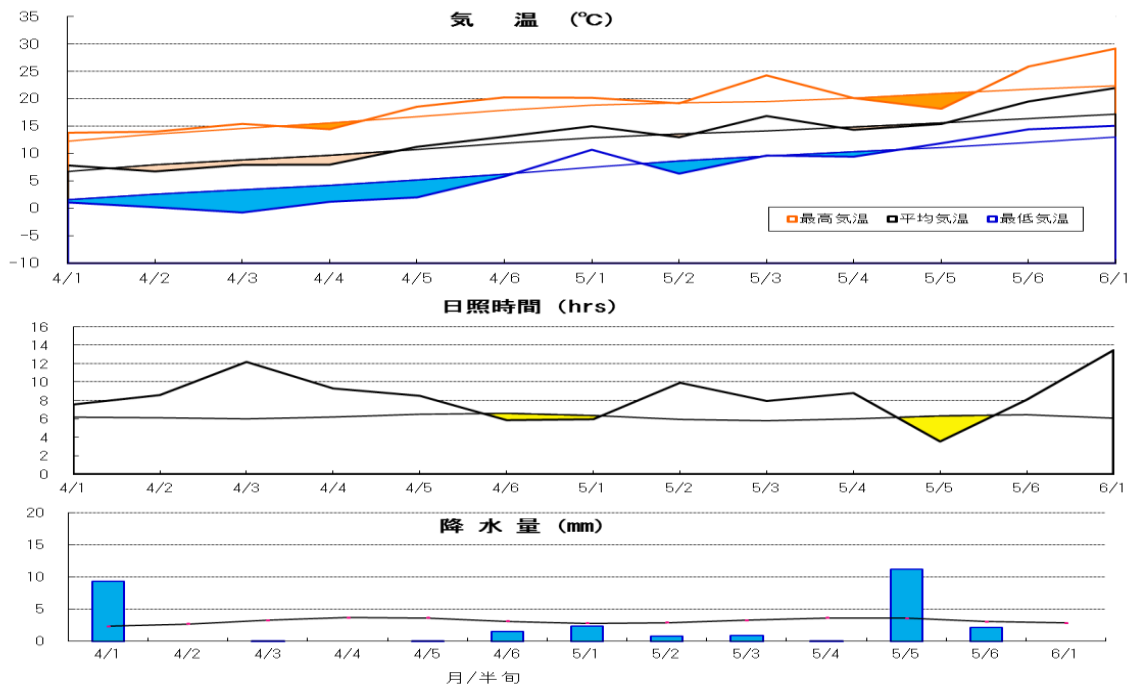


図-1 平成26年産水稻作期間の気象経過 (アメダス古川 半旬別)

(1) 気温

- ・5月の気温は平年並み～やや高く、6月入っても同様の傾向で推移した。

(2) 日照時間

- ・5月第5半旬がやや少照だったが、それ以外は多照であった。

(3) 降水量

- ・5月第5半旬が平年より多かったが、全体的に少雨傾向であった。

2 今後の気象予報

(1) 週間天気予報 (6月4日～6月10日)

- ・曇りや雨の日が多いが、期間のはじめは晴れる所がある。
- ・最高気温は平年並の日が多い見込みで、最低気温は平年より高い日が多く、かなり高い所がある。

(2) 1か月の天候予報(5月31日～6月30日)

- ・期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込み。
- ・平年に比べ曇りや雨の日が少ない。
- ・平均気温は、高い確率40%、降水量は、平年並または少ない確率ともに40%、日照時間は、平年並または多い確率ともに40%である。

- ・週別の気温は，1週目は，高い確率80%，2週目は，平年並または高い確率ともに40%

3 生育状況

- ・6月2日現在，県全体の生育状況は田植後の好天により，順調な経過をたどっている。
- ・主稈葉数等からすると，平年に比べて3～4日程度進んでいる。
- ・草丈は25.0cm(平年比119%)，1㎡当たりの茎数は104本(平年比112%)，葉数は5.4枚(平年差+0.5枚)であった。
- ・県内の水田では，主稈葉数は，5月上旬植で6枚目，5月中旬植で5枚目，5月下旬植で4枚目程度と思われる。
- ・草丈は，20～25cmで，茎数は，4～5本/株植で50～100本/㎡と思われる。

表－1 県内の水稻生育状況（宮城県調査）

a. 県全体

| 県全体 | 草 丈 | | | 茎 数 | | | 葉 数 | | |
|-----|-------------|------------|------------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 本 年 (cm) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (本/㎡) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (枚) | 前年差 (枚) | 平年差 (枚) |
| | 25.0 | 117 | 119 | 104 | 111 | 112 | 5.4 | 0.4 | 0.5 |

b. 品種別

| 品種別 | 草 丈 | | | 茎 数 | | | 葉 数 | | |
|-------|-------------|------------|------------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 本 年 (cm) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (本/㎡) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (枚) | 前年差 (枚) | 平年差 (枚) |
| ひとめぼれ | 24.4 | 114 | 116 | 107 | 112 | 112 | 5.4 | 0.2 | 0.4 |
| ササニシキ | 24.7 | 123 | 122 | 92 | 102 | 110 | 5.4 | 0.6 | 0.6 |
| まなむすめ | 29.0 | 119 | 120 | 104 | 119 | 109 | 5.8 | 0.5 | 1.1 |

※平年比・平年差：前5ヶ年（平成21年～25年）の平均値との比較



図－2 上段「ひとめぼれ」左：5月1日植 右：5月10日植
下段「ササニシキ」左：5月10日植，右：直播「ひとめぼれ」5月15日播種

4 今後の管理

(1) 水管理

- ・浅水が基本ですが，低温の日は5～6cmの深水で保温し，また深水による茎数管理をします。
- ・生わらや未熟堆肥を施用した水田では，一時落水等でガスの発生や土壌還元による生育抑制を防ぐことが必要である。

(2) 雑草防除

- ・中期除草剤は，使用時期の幅が狭く，稲やノビエの葉齢に制限がある剤が多いので，ラベルをよく読んで処理する。
- ・薬剤の選定，使用にあたっては，最新の農薬登録情報を確認する。
- ・除草剤を使用する際は，止水期間を1週間程度とすることが効果のポイントである。
- ・直播栽培では，苗立ちが確保されたら時期を逃さず湛水して除草剤を散布する。

(3) 病虫害発生情報（県防除所より）

① 葉いもち

- ・葉いもちの発病を予測するため，防除所が出しているBLASTAMによる感染好適感日の推定情報を活用する。（現時点では感染好適日は出現していない。）

「BLASTAM」について

—BLASTAMとは，アメダスデータを元に葉いもち感染好適日を推定するシステム—

□いもち病の孢子が発芽，感染するためには，次のような条件が必要である。

- a 葉面湿潤時間が10時間以上
- b 葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃
- c 前5日間の平均気温が20℃～25℃

※3つの条件が全て満たされると，いもち病が感染するのに好適な条件となる。
連続で好適条件が広域で出現した場合，約2週間後に葉いもち発病が始まる。

② イネミズゾウムシ：発生時期は，「平年並み」(6月第1半旬)，発生量は「やや多い」

③ イネドロオイムシ：発生時期は，「平年並み」(6月第1半旬)，発生量は「平年並み」

